

問題【国語】

次の文章は更級日記の冒頭の一部です。読んで後の問いに答えましょう。

世の中に物語といふものあんなるを、いかで見ばやと思ひつつ、つれづれなる昼間、よひるなどに、姉、継母などやうの人々の、その物語、かの物語、光源氏のあるやうなど、ところどころ語るを聞くに、いとどゆかしさまされど、わが思ふままに、そらにいかでかおぼえ語らむ。

問い：下線部の「いとどゆかし」は「とてもしたい」という意味ですが、筆者は何をしたいのでしょうか。下の文の（ ）に適語を入れましょう。

姉や継母が（ 1 ）について話しているのを聞いて、その（ 1 ）について（ 2 ）たいと思った。

豆知識 雑学コラム

更級日記と読書感想文

今年の夏休みはコロナ禍でいつもと違うことも多いですが、一方で宿題はいつもの夏休みと同じように出るなんてこともあるようです。夏休みの宿題といえば、自由研究と読書感想文ですね。今回の更級日記の内容は平安時代の読書感想文といった側面のある作品です。今日は更級日記を参考に読書感想文を書く上でのポイントを考えてみましょう。

更級日記の作者は菅原孝標女という人物で、幼い頃から姉や継母が源氏物語について話しているのを聞いて、内容を知りたいな、読みたいなと憧れを抱く文学大好き少女でした。その後、14歳で親戚から源氏物語を全巻もらい、それを読むことで、自分もいつか物語の登場人物のようになりたいと願う青春時代を過ごします。これは現在でも、漫画やドラマの登場人物にあこがれを抱くことがあるのと同じで、共感する人も多いのではないのでしょうか。

さて、作者の菅原孝標女は冒頭で源氏物語を読みたいと思ったきっかけを書いています。実はこの「読みたいと思ったきっかけ」が読書感想文を書く上でとても重要なポイントになります。どうせ、読書をするなら、興味のない作品でなく、興味のある作品を読みたいですね。将来、看護師になりたいという人なら実際の看護師さんが書いたエッセイを読んでみるといった具合に自分の興味がある作品を読んでみましょう。そして、読書感想文では、「読もうと思ったきっかけ」→「読む前に知っていたこと」→「読んで初めて知ったこと」→「今後の自分に活かしていきたいこと」という順番で本の感想をまとめていきましょう。もともと興味のある作品であれば、「読もうと思ったきっかけ」や「読む前に知っていたこと、読む前の印象」がうまく書けて、充実した内容のものが書けます。このように読書感想文では、「読もうと思ったきっかけ」がしっかりある本を選んで読みましょう。

【解答】

（1）源氏物語（2）知りた